

【背景と目指す姿】

- 塩野谷農協高根沢枝豆部会は生産者の多くは作付け50a未満と小規模であり、高品質を維持するため規格外として廃棄されるものも多いのが現状である。
- 一方で、毎年新規導入者や規模拡大志向者が増えており、機械化体系の強化、大規模栽培の取組み、販路拡大の意向も強い。
- そこで、規模拡大志向者による枝豆研究会を設立し、機械化体系の整備、既存生産者を含めた技術向上、出荷調整作業の省力化(共同選果場設置検討も含む)、新たな販路拡大のための食品企業との契約取引拡大等のブランド力強化に取組み、これまでの短期出荷、小面積中心の産地から、長期出荷、大規模面積栽培ができる産地を目指す。

1 水田における露地野菜転換面積

現状(平成30(2018)年度):4.5ha ⇒ 目標(令和3(2021)年度):10.5ha

2 主な取組内容(令和元(2019)～令和3(2021)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・播種・収穫・調整機械実演会、栽培講習会の開催等により技術向上、機械導入推進、新規栽培者確保 ・団地化に向け、市町と連携した「人・農地プラン」に基づく農地流動化調整 ・排水対策の実施
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・生産機械の整備と機械化一貫体系モデル経営体の育成 ・中小規模の複数研究会員が共同で調整選別ができる体制整備について検討 ・部会、市町、関係機関と連携した雇用確保(シルバー人材センターへの求人募集等)
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・販路拡大のための食品企業との情報交換を実施 ・県が実施する食品企業とのマッチング等を活用した新たな販路の確保 ・単収上位者や上位規格出荷量上位者への表彰事業による集荷率の向上



収穫直前の枝豆



収穫機



選別機